

山田 恭平先生に聞< >>>1



山田 恭平(やまだ・きょうへい)

北海道千歳リハビリテーション大学教授
/作業療法士/博士(作業療法学)

旭川市出身の43歳。札幌医科大学保健医療学部作業療学科卒業、同大学院保健医療学研究科博士課程修了。

「医学や医療に興味があり、病院で働きたい」との思いで、札幌大を目指すことに。一年浪人し、「一日10時間以上、毎日勉強した」努力が実を結び、作業療学科進学を果たした。

2024年から公益社団法人北海道作業療法士会の地域部「運転と地域移動支援推進課」の課長を務め、25年からは担当理事となって地域の高齢者やそれを支援する作業療法士や関係職種のサポートに当たっている。現在、道内の総合病院や脳神経外科にて臨床業務にも従事し、教育指導を行っている。

質問1 作業療法士は、目指します。病気や障がいのある人の生活機能の向上を支援するお仕事を伺っておりますが、作業療法学専攻ではどのような学びや実践に取り組みられているのでしょうか。

作業療法士は、「生活」のスペシャリストとして、病気や事故、発達上の課題などで生活に困難を抱える方を支援する専門職です。その人らしい生活を送るために必要な能力を取り戻したり、環境を整えたりすること、生活機能の向上を

対象は「全世代」と「全学や運動学などを学び、専門科目では、身体障がい、精神障がい、小児発達障がいなど、多岐にわたる分野を深く学びます。

【手厚いサポートと高い国家試験合格률】

安心して学べるよう、つぎのようなきめ細かなサポート体制を整えています。

ホームルーム・個別面談・週1回程度のホームルームや担任による個別面談で、学事や実習、学習の進捗を支援。

ゼミ活動…少人数制で、教員が卒論指導と個別国家試験対策をサポートします。

国家試験対策プログラム…3年生から独自のプログラム(全46コマの講義、模試、オンライン課題など)で徹底支援し、高い合格率につなげています。

当大学は理学療法士と作業療法士の養成に特化した単科大学で、教員と学生の距離が近く、少人数制ならではのきめ細かな指導が強みです。実績と道内ネット

ワークも皆さんの学びと将來を力強く支えます。

質問2 年齢や障がいの程度、(目標とする)生活行為などが異なる対象者に寄り添っていくためには、特にコミュニケーション能力が必要とのことですが、それを育てていく上で心がけていることがあればお聞かせください。

作業療法士にとって、コミュニケーション能力は仕事の根幹をなす大切な力です。対象者の「やりたい」という気持ちに寄り添い、その人らしい生活を取り戻す支援をするためには、相手の言葉の奥にある本当の願いや困り事を理解し、信頼関係を築くことが不可欠だからです。

当専攻では、このコミュニケーション能力を育むために、以下の点を心がけています。

1. 「やりたい」に焦点を当てる聞き取りの徹底…私たちは、「どこが痛い」「何ができないか」だけでなく、「できるようなりたいことは何か」「できるようにって、具体的にどんな生活を送りたいか」、対象者の本音、本当に大切にしていることを聞き出すことを重視しています。思い浮かばない方には、生活行為が記載された「興味・関心チェックシート」も活用し、潜在的な「やりたいこと」を引き出

2. 実践的な演習を通じたコミュニケーションスキル

の習得…講義だけでなく、実際の場面を想定した演習を多く取り入れています。代表的なのが、学生が「利用者役」と「セラピスト役」に分かれ、聞き取りを練習する「生活行為向上マネジメント」演習です。

3. 対象者の24時間365日の生活全体を捉える視点…私たちは、リハビリテーションを行う場面だけでなく、対象者の「24時間365日の連続的な生活」全体を考慮して支援計画を立てることを心がけています。そのため、ご本人だけでなく、ご家族やほかの支援者、地域の方々とも連携し、幅広い視点から情報を集め、コミュニケーションを図ることが大切です。

これからの取組を通じて、当専攻では、豊かなコミュニケーション能力を持ち、その人の人生に深く寄り添える作業療法士を育成しています。

(次回は29日付に掲載)